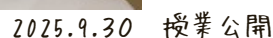


で、いーえっくす

111



スーパーティーチャー

生成AIの改作案を参考に、自分が伝えたい事柄や大事にしたい印象を明確にして、自作の短歌を推敲する授業でした。授業では、「生成AIは正解をくれるものではなく、考えるきっかけをくれるパートナー。最後に言葉を選ぶのは自分自身。生成AIの案を参考にしてもよいし、違うと思ったら使わなくてよい。最も大切なのは、自分が伝えたい印象である。」という考え方が、子どもたちの学びの中心に据えられた大変素晴らしい授業でした。



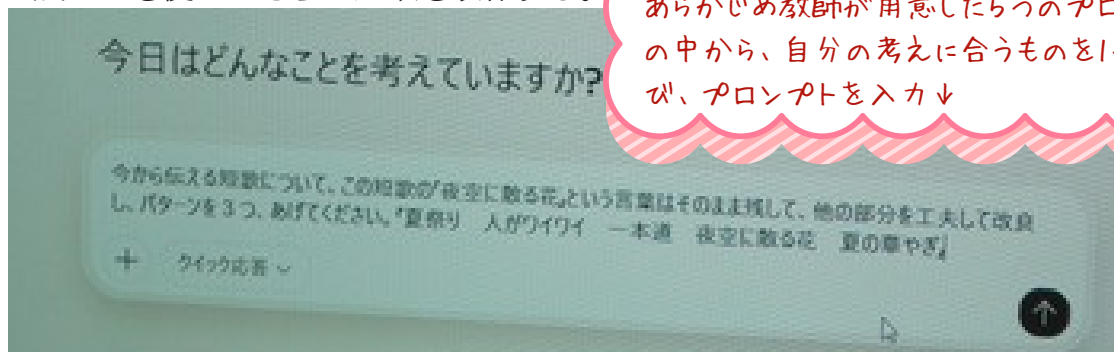
導入

1. 単元シートを振り返り、「短歌」の学習を思い出すとともに、本単元の見通しをもつ。

めあて：表現の効果を確かめながら、短歌を推敲することができるか。

2. 前時に改作した案を、ペアで共有し、印象の違いを感じ取る。

3. 生成AIを使ってさらに短歌を改作する。

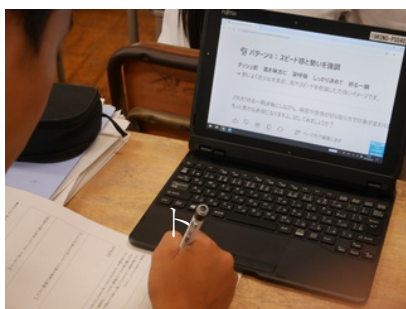


あらかじめ教師が用意した5つのプロンプトの中から、自分の考えに合うものを1つ選び、プロンプトを入力↓

4. 生成AIや交流活動での意見を参考にしながら推敲する。

生成AIの回答を丸写しするのではなく、絶対に外したくない語句や自分が大切にしたい印象を意識し、友達と対話を重ねて推敲を行っていました。

展開



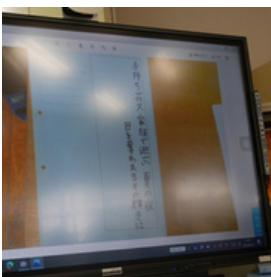
改作前と後の俳句の印象の違いを教師と確認



改作後の俳句を表示

展望

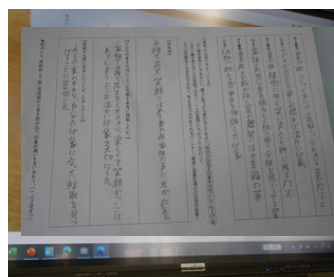
5. 改作前と改作後の友達の短歌を比較しながら、クラス全体で学習を振り返る。



改作前
牛持ち花火
夏の夜
その輝きに
目を奪われる
家族で遊ぶ

生徒の記述（ワークシートより抜粋）

家族で牛持ち花火をしたときに、楽しくて笑顔がついにぼれてしまうような温かい印象を大切に、推敲しました。



改作後
牛持ち花火
夏の夜
家族の
光が応える
笑顔に
家族の
笑顔に
家族の
笑顔に

「SAGA Eコネクト」ではたくさんの事例を紹介しています。

<https://www.saga-high-school.jp/e-connect/>

